



栗原悠人

Yuto Kurihara

「今、ここで 限界を超える」

平成19年生まれの15歳。第49回全日本中学校陸上競技選手権大会400m走福岡県代表。赤池中学校入学時に陸上部に入部し、陸上競技を始める。400m走に本格的に取り組み出してわずか3か月で全国行きの切符を手にした俊才。

あれよあれよという間に400m走の全国大会に福岡県代表として出場することになった。本格的に400m走に取り組み始めて僅か3か月しか経ってはいなかった。

走るの好きだったが、小学校のころはランニングをしていくくらいで特に運動をしていくわけではなかった。赤池中学校入学と同時に陸上部に入部し、本格的に陸上競技を始めた。練習は中学校の陸上部以外にも、田川陸上クラブで行う他、父親の幸治さんと筑豊緑地で自主練習を行っている。幸治さん自身は陸上競技の経験はないものの、子供の頃から大学までサッカーをプレーした元アスリート。運動に対する造詣は深く、練習方法を本やネットで調べ、練習メニューを考案してくれると言う。

豊富な練習量と身体の成長が相まってタイムは順調に伸びていき、去年から素質を見抜いた当時の顧問の先生や田川陸上クラブのコーチから、400m走のレースに出ることを勧められるようになった。そして今年の4月から本格的に400m走に取り組みようになるとすぐに結果を出す。6月の大会で全国大会参加標準記録を軽く突破する自己ベスト51秒22を叩き出す。7月の大会で、第49回全日本中学校陸上競技選手権大会出場決定。平成18年に市町村合併で福智町が誕生して以来、中学生が陸上競技で全国大会に出場するのは初の快挙であった。エリートランナーの栗原君。その強さ

の秘密は一体どこにあるのか？顧問の遠藤先生に聞いてみた。遠藤先生曰く、「優れた素質」はもちろんのこと、「きつい練習でも止めないメンタルの強さ」「練習の一つの意義を理解していること」だと言う。なぜきつい時に止めないで続けられるのか。その理由を本人に尋ねたところ、「きつい時こそ、もうワンステップ踏み込むことで強くなるから」と教えてくれた。

また、「この練習は何の役に立つのか」を理解した上で練習すると、漫然と練習する場合と比べて「効果が全く違う」と言う。

短距離走は個人競技だが、栗原君は、「仲間や後輩に強くなって欲しいから」「仲間やアドバイスの出し惜しみをしない。練習では積極的に声出しをし、きついときにはみんなを励まし、背中を押し、練習の質を高めてくれる、仲間想いの熱い男だ。真面目でしっかり者の栗原くんだが、クラスのムードメーカーでもある。行事で一発芸を披露したときは、「大会よりも緊張した」とのこと。ひょうきんな一面も持ち合わせる栗原君だが、

普段は仲間とふざけ合っているも、練習になるとスイッチが入り、練習モードに切り替わる。やるときはやる男である。迎えた8月19日、福島県での第49回全日本中学校陸上競技選手権大会。惜しくも決勝進出はならなかった。しかし、足首の怪我で決して万全な状態ではないなか、好きなマンガ「ブラッククローバー」の、きついときにいつも自分を鼓舞してくれたセリフ「今ここで限界を超える」が今回も後押ししてくれた。肉体の限界を超え、福岡県代表として並み居る強豪と堂々と渡り合った。成長期まったただ中の栗原君。無限の可能性を秘めた福智町のアスリートから、今後目が離せない。

